

# 「倭」源流考

## (その一・越裳について〈下〉)

菊池良輝

Studies on the Roots of Wa (part 1),

Studies on ESSHO (the 3rd part)

by Yoshiteru Kikuchi

### 一四、交趾(越裳)記載各書

越裳が周の成王の時代、どこに位置していたかを論ずる為に、先に幽都につき論じ、幽都が実在―それも歴史的に重要な位置を占めていることを述べた。そうなれば越裳国の北方に存在し、且つ、幽都と対称的に位置する交趾も、その実在性が高いということになる。

交趾の位置(同様に越裳の位置も)を記載しているのは管見ながら、

『尚書』<sup>二</sup>虞書・堯典、『墨子』<sup>三</sup>節用、『韓非子』<sup>四</sup>十過、『呂氏春秋』<sup>五</sup>

卷二二・慎行論、『尚書大伝』<sup>六</sup>卷一・唐伝、同書<sup>七</sup>卷四・金縢、『淮南子』<sup>八</sup>

卷九・主術訓、同書<sup>九</sup>卷一九・脩務訓、『史記』<sup>一〇</sup>卷一・五帝本紀、『礼記』<sup>一一</sup>王制、『新序』<sup>一二</sup>雜事、『漢書』<sup>一三</sup>卷二八・地理志、『山海經』<sup>一四</sup>海外南經、

『後漢書』<sup>一五</sup>卷八六・南蠻伝、『水経注』<sup>一六</sup>卷三七・葉榆河篇、『元和郡県

図志』<sup>一七</sup>卷三八・嶺南道、『通典』<sup>一八</sup>卷一八八・辺防等の各書である。

尚、交趾・交趾と二通りに記されているが、『説文』<sup>一九</sup>に「趾与止音義皆同」とあり、『説文通訓定声』<sup>二〇</sup>に「止、加足傍作止」とあり、「交趾」「交趾」共に同音義である。

一般的に交趾の位置が特定できるのは前漢武帝の元鼎六年(西暦前一一一年)以後であり、現在のベトナム・ハノイという。

『前漢書』地理志以前の書から「交趾」の位置を特定することは不可能である。

しかし、先稿でも論じたように、「白雉」が貢献されたのはほとんど事実と思われるので、どこかに「交趾」が存在したはずである。

当時の交趾の位置につき、『辞海編輯者』<sup>二四</sup>は「あまねく五嶺以南を指す」としている。

以下に、周―秦時代の中国の有効支配を見、判断の材料としたい。

(注)

一、拙著「倭源流考、その一・越裳について」(中)『千葉敬愛短期大学紀要第11号』千葉敬愛短期大学。一九八九年。一三頁以下。

尚、先号一一、交趾の項でも、主要書として関連文献を挙げたが、改めて以下に掲載し、論を進めたい。

二、十三経注疏。漢・孔安国伝、唐・孔穎達等正義『尚書正義』中華書局影印。一九七九年。

尚、孫星衍は、「南交」につき次のように述べている。

南交者、書疏引書緯言、春夏相与交、秋冬相与互、謂之母成子・子助母、疏又云、春尽之日、与立夏之初、時相交也、東方之南、南方之東、位相交也、四時皆举仲月之候、言其不統季・孟、於此言交、明四時皆然、大伝云、中祀大交、注云、中、仲也、古字通、春為元、夏為仲、五月南巡狩、仲祭大交氣於霍山也、南交称大交、書曰、宅南交也、大伝説、堯南撫交趾者、大戴礼少問篇云、昔虞舜以天德嗣堯、朔方幽都来服、南撫交趾、出入日月、莫不率俾、墨子節用篇云、昔者、堯治天下、南撫交趾、北降幽都、東西至日所出入、莫不賓服、似俱用此經文為、史記宗隱云、東嶠夷、西昧谷、北幽都、三方皆言地、而夏独不言、或古文略举一字名地、南交則是交趾不疑也(清・孫星衍撰、陳抗・盛冬鈴点校、十三経清人注疏『尚書今古文注疏』中華書局。一九八六年。一七頁)。

三、全釈漢文大系第十八卷、著者・渡邊卓『墨子上』集英社。昭和四十九年。

四、周鍾靈・施孝適・許惟賢主編『韓非子索引』中華書局。一九八二年。

五、中華文化復興運動推行委員會・国立編訳館中華叢書編審委員會主編。

林品石註訳『呂氏春秋今註今訳』台湾商務印書館發行。中華民國七十四年。

六・七、四部叢刊經部收書『尚書大伝』上海商務印書館。

八・九、国学基本叢書、王雲五主編・劉安撰・劉文典集解『淮南鴻烈集解』台湾商務印書館印行。中華民國六十七年。

一〇、漢・司馬遷撰、宋・裴駰集解、唐・司馬貞索隱、唐・張守節正義『史記』中華書局。一九七二年。

一一、前掲二注・漢・鄭元注、唐・孔穎達等正義『礼記正義』。

尚、『後漢書』卷八六・南蛮伝に「礼記称、南方曰蛮、彫題交趾、其俗男女同川而浴、故曰交趾」とあり、李賢等注に「題、額也、雕之、謂刻其肌以丹青涅也」とある(宋・范曄撰、唐・李賢等注『後漢書』中華書局。一九七三年。二八三四頁)。

一二、中華文化復興運動推行委員會・国立編訳館中華叢書編審委員會主編。盧

元駿註訳『新序今註今訳』台湾商務印書館印行。中華民國六十四年。

一三、漢蘭台令史・班固撰、唐秘書少監・顏師古注『漢書』中華書局。

一九七五年。

一四、袁珂校注『山海經』上海古籍出版社。一九八三年。

一五、宋・范曄撰、唐・李賢等注『後漢書』中華書局。

一九七三年。

一六、後魏・酈道元撰、清・戴震校『水經注』世界書局印行。

中華民國五十八年。

一七、中国古代地理總志叢刊、唐・李吉甫撰、賀次君点校『元和郡縣圖志』中華書局出版。一九八三年。

唐・杜佑撰、影印者・洪浩培、国学基本叢書『通典』新興書局。中華民國五十五年。典一〇〇七頁。

一八、漢・許慎撰、清・段玉裁注『說文解字注』上海古籍出版社。一九八一年。

七三四頁。

二〇、清・宋駿声編著『說文通訓定聲』中華書局出版。一九八四年。一六五頁。

二一、前掲一三注。一六二九頁。

二二、青山定雄編『讀史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房。

昭和四十九年。六五頁。

二三、前掲一注。

二四、辭海編輯委員會『辭海上』「交趾」上海辭書出版社。一九七九年。

七九四頁。

## 一五、周―秦の広がり

周―秦の有効文配を見る為に、いわゆる「周の十二諸侯」「戦国の七雄」「秦三十六郡」につき、その国名・郡名と治所比定地を挙げる。比定地の検索に利用した書物は、『大漢和辞典』『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』『辞海』『中国古今地名大辞典』の各書である。

### (一) 十二諸侯

『史記』卷十四・十二諸侯年表

索隱、案、篇言「十二」、實敘「十三」者、賤「夷狄」不「数」呉、

又覇在「後故也」、不「数」而敘「之者」、闔閭覇「盟上国」故也、（太史公

曰）於「是譜」「十二諸侯」、自「共和」訖「孔子」、表「見春秋・国語」

學者所「識盛衰大指著」于「篇」、為「成」学治「古文」者「要刪焉」、周・

魯・齊・晋・秦・楚・宋・衛・陳・蔡・曹・鄭・燕・呉。

『漢書』卷六十五・東方朔伝

（東方先生曰）并為「十二国」。師古曰、十二国、謂「魯・衛・齊・

楚・宋・鄭・魏・燕・趙・中山・秦・韓」也。

『戦国策』卷七・秦

梁君伐「楚勝」齊、制「趙・韓之兵」、馳「十二諸侯」以朝「天子於

孟津」。高誘注、梁君梁惠王也、伐「楚・齊勝」之、制「御趙・韓之

兵」、驅「使十二諸侯魯・衛・曹・宋・鄭・陳・許之君」、朝「天子於

孟津」。

以上の三書に挙げられている周以外の魯・齊・晋・秦・楚・宋・衛・

陳・蔡・曹・鄭・燕・呉・魏・趙・韓・中山・許・梁の十九カ国をいわ

ゆる「十二諸侯」とし、その治所の現在地比定が表XXの「十二諸侯・治所比定一覧」であり、その省別比定一覧がXXの「十二諸侯省別比定一覧」である。

### (二) 戦国の七雄

『史記』卷十五・六国年表

索隱、六国、魏・韓・趙・楚・燕・齊、并「秦凡七国」、号曰「七雄」。

この七雄のそれぞれの治所の現在地比定が、XXIの「戦国七雄国名治所

別比定一覧」であり、その省別比定一覧が、XXIIの「戦国七雄省別比定一

覧」である。

### (三) 秦三十六郡

『史記』卷六・秦始皇本紀二十六年条

分「天下」以為「三十六郡」、郡置「守・尉・監」、更名「民曰」黔

首。集解、三十六郡者、三川・河東・南陽・南郡・九江・鄣郡・会稽・

潁川・碭郡・泗水・薛郡・東郡・琅邪・齊郡・上谷・漁陽・右北平・遼

西・遼東・代郡・鉅鹿・邯鄲・上党・太原・雲中・九原・鴈門・上郡・

隴西・北地・漢中・巴郡・蜀郡・黔中・長沙凡三十五、与「内史」為「

三十六郡」。

この三十六郡のそれぞれの治所の現在地比定が、表XXIIIの「秦三十六郡

名別比定一覧」であり、その省別比定一覧が、表XXIVの「秦三十六郡名省

別比定一覧」である。

そして、各省別に、周十二諸侯・戦国七雄・秦三十六郡の比定地を記

入した図を作成した（図I）

さらに、十二諸侯・戦国七雄・秦三十六郡の、それぞれの比定場所を

個数別に、中国全図に記入した(図Ⅱ)、個数は比定地に異説が多いと増える傾向は否めない。しかし当時の各時代の実効支配の概念は把握できると思われる。

この図を見ても分かる通り、周代の行政範囲とも言うべき地域は、山西・陝西・河南・山東各省を中心として、江蘇・安徽・湖北・亜爾(一部)各省に渡る範囲とみてよさそうである。

後、秦代に入って、内蒙古オルドス地方に遼寧・浙江・湖南・四川各省の、それもそれぞれの周辺部が、その範囲に入っている。

長江流域(広く江南を含めて)は、周代、いわゆる漢人の行政範囲に入っていない。ましてや、周・成王時代(西暦前十一世紀か)は、非漢人の居住地域であつたであろう。

すなわち越裳国は周王朝初期、江南地方に存在したものと推測される。

(注) 一、諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館書店。昭和三十五年。

二、青山定雄編『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房。

昭和四十九年。

三、辞海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社。一九七九年。

四、臧勵齋等編『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館発行。

中華民國六十一年

五、漢・司馬遷、宋・裴駰集解、唐・司馬貞索隱、唐・張守節正義『史記』

中華書局。一九七二年。五〇九―一一頁。

六、漢蘭台令史・班固撰、唐秘書少監・顏師古注『漢書』中華書局。

一九七五年。二八六―四五頁。

七、全釈漢文大系・近藤光男著『戦国策』集英社。昭和五十年。三五〇頁。

八、前掲五注。六八五頁。

九、前掲五注。二二九―四〇頁。

一〇、図の作成に当たっては、『中華人民共和國分省地圖集』地圖出版社。一九七四年。及び、『中国地圖』香港学林書店印行。一九七二年を参照した。

XIX 十二諸侯名・治所別比定一覽 戦国（前 475 年以降）は記載せず。

諸侯	記載	出典	比定地
魯	史記・戦国策・漢書	大	曲阜（山東省曲阜県）
		読	山東省曲阜県
		辞	曲阜（山東）
		中	曲阜（山東曲阜県）
齊	史記・戦国策・漢書	大	——
		読	營邱（山東省臨淄県北）
		辞	營丘（後称「臨淄」＝山東淄博市東北）
		中	營丘（山東臨淄県。一云山東昌樂県東南＝廢營陵城）→薄姑（山東博興県東北十五里）→臨淄（山東臨淄県）
晋	史記	大	唐（山西省太原県北）→晋（山西省太原県）→曲沃（山西省聞喜県）→絳（山西省翼城県の東南）
		読	晋（山西省太原県付近）→絳（絳城か＝山西省曲沃県西南二里）
		辞	唐（山西翼城西）→曲沃（山西聞喜東北）→絳（山西翼城東南）→新田（山西曲沃西北）
		中	唐（山西太原県北）→晋（山西太原県）→曲沃（山西聞喜県）→絳（山西新絳県北）→新田（山西曲沃東南）
秦	史記・漢書	大	甘肅省天水県の故秦城→犬丘（陝西省興平県東南十里之槐里城）
		読	——
		辞	雍（陝西鳳翔東南）
		中	甘肅天水県故秦城→犬丘（陝西興平県東南十里之槐里城）→汧（陝西隴県南三里之汧城）→汧渭間（陝西郿県東北十五里之故郿城）→平陽（陝西鳳翔県）
楚	史記・戦国策・漢書	大	丹陽（湖北省秭帰県の東）→郢（湖北省江陵県の北の紀南城）
		読	丹陽（湖北省秭帰県東南七里）→陳城
		辞	丹陽（湖北秭帰県東南）→郢（湖北江陵西北紀王城）
		中	丹陽（湖北秭帰県東）→郢（湖北江陵県北紀南城）→郢（一名郢郢。湖北宜城県）→陳（河南淮陽県）

（＜上＞については終巻・1のそ）参照「巻」

諸侯	記載	出典	比定地
宋	史記・戦国策・漢書	大	商丘 (河南省商丘県の南)
		読	河南省商丘県西南三里ノ故商邱
		辞	商丘 (河南商丘南)
		中	河南商丘県南
		大	河南省淇県の東北の朝歌城 → 楚丘 (滑県の東) → 帝丘 (河北省濮陽県の西南の頓瓊城)
衛	史記・戦国策・漢書	読	朝歌 (河南省濬県西七十里)
		辞	朝歌 (河南淇県) → 楚丘 (河南滑県) → 帝丘 (河南濮陽)
		中	河南淇県東北朝歌城 → 楚丘 (濮県東) → 帝丘 (河北濮陽県西南之頓瓊城)
		大	宛丘 (河南省淮陽県)
		読	故宛邱 (宛邱=河南省淮陽県南三里)
陳	史記・戦国策	辞	宛丘 (河南淮陽)
		中	宛丘 (河南淮陽県)
		大	河南省上蔡県の西南
		読	蔡 (河南省上蔡県西南十里) → 新蔡 → 下蔡
		辞	上蔡 (河南上蔡西南) → 新蔡 (河南) → 州来 (下蔡=安徽鳳台)
蔡	史記	中	蔡 (河南上蔡県西南) → 新蔡 (河南新蔡県) → 州来 (下蔡=安徽鳳台県)
		大	陶丘 (山東省定陶県)
		読	故陶城 (山東省定陶県西)
		辞	陶丘 (山東定陶西南)
		中	陶丘 (山東定陶県西北四里)
曹	史記・戦国策		

諸侯	記載	出典	比定地
鄭	史記・戦国策・漢書	大	西都畿内 (陝西省華県の西北) →新鄭 (河南省新鄭県)
		読	故鄭城 (河南省新鄭県西北)
		辞	鄭 (陝西華県東) →新鄭 (河南)
燕	史記・漢書	中	鄭 (西都畿内 = 陝西華県西北) →新鄭 (河南新鄭県)
		大	薊 (河北省大興県)
		読	薊
呉	史記	辞	薊 (北京城西南陽)
		中	北燕 (河北大興県)
		大	——
魏	漢書	読	闔閭城 (江蘇省無錫県東南四十里)
		辞	呉 (江蘇蘇州)
		中	梅里 (江蘇無錫県) →太城 (呉県)
趙	戦国策・漢書	大	魏 (山西省芮城県の東北)
		読	魏城 → 霍 (山西省霍県) → 安邑
		辞	山西芮城北
趙	戦国策・漢書	中	魏 (山西省芮城県の東北)
		大	趙城 (山西省趙城県の西南)
		読	——
趙	戦国策・漢書	辞	——
		中	趙城 (山西省趙城県の西南)

(＜上＞について解釋・1の2) 策策源「秘」

諸侯	記載	出典	比	定	地
韓	戰國策・漢書	大	陝西省韓城縣		
		號	故韓城 (陝西省韓城縣南十八里)		
		辞	山西河津東北		
		中	陝西韓城縣南		
		大	河北省定興		
中	漢書	號	河北省唐縣西北十三里		
		辞	河北正定東北		
		中	直隸定興		
計	戰國策	大	許 (河南省許昌縣) → 葉 (葉縣)		
		號	許昌 (許昌故城。後漢一。河南省許昌縣東三十里) → 葉 (葉故城、漢一。河南省葉縣東)		
		辞	河南許昌東→葉 (河南葉縣西南) → 城父 (安徽亳縣東南) → 葉 (「前出」) → 白羽 (河南西峽) → 容城 (河南魯山東南)		
		中	許 (河南許昌縣) → 葉 (葉縣) → 夷 (城父=安徽亳縣東南七十里) → 析 (白羽=河南內鄉縣) → 容城 (華容城=湖北監利縣、或、葉縣西)		
		大	故少梁城 (陝西省韓城縣の南)		
梁	戰國策	號	故少梁城 (陝西省韓城縣南二十二里)		
		辞	陝西韓城南		
		中	古少梁城 (陝西韓城縣南二十里)		

XX 十二諸侯省別比定一覽

省名	燕	中山
出典		
大	薊 (大興県)	定県
読	薊	唐県西北十三里
辞	薊 (北京城西南隅)	正定東北
中	北燕 (大興県)	定県

省名	晋	魏	韓
出典			
大	唐 (太原県の北) ・ 晋 (太原県) ・ 曲沃 (聞喜県) ・ 絳 (翼城県の東南)	魏 (芮城県の東北)	*
読	晋 (太原県付近) ・ 絳 (絳城か=曲沃県西南二里)	霍 (霍県)	*
辞	唐 (翼城西) ・ 曲沃 (聞喜東北) ・ 絳 (翼城東南) ・ 長田 (山西曲沃西北)	芮城北	河津東北
中	唐 (太原県北) ・ 晋 (太原県) ・ 曲沃 (聞喜県) ・ 絳 (新絳県北) ・ 新田 (沃県南)	魏 (芮城県東北)	*
出典	趙		
大	趙城 (趙城県の西南)		
読	——		
辞	——		
中	趙城 (趙城県の西南)		

省名	秦
出典	
大	天水県故秦城
読	——
辞	*
中	天水県故秦城

(「上」は「魏・絳・曲沃」の「魏」)

省名	魯	齊
出典		
大	曲阜 (曲阜県)	_____
読	曲阜 県	營邱 (臨淄県北)
辞	曲阜 (山東)	營丘 (後称臨淄=淄博市東北)
中	曲阜 (曲阜県)	營丘 (臨淄県。一云昌樂県東南=廢營陵城)・薄姑 (博興県東北十五里)・臨淄 (臨淄県)
出典	曹	
大	陶丘 (定陶県)	
読	故陶城 (定陶県西)	
辞	陶丘 (定邦西南)	
中	陶丘 (定陶県西北四里)	

省名	吳
出典	_____
大	_____
読	闔閭城 (無錫県東南四十里)
辞	吳 (蘇州)
中	梅里 (無錫県)・太城 (吳県)

省名	蔡	許
出典	_____	_____
大	_____	_____
読	_____	_____
辞	州来 (鳳台)	城父 (亳県東南)
中	州来 (鳳台)	夷 (城父=亳県東南七十里)

省名			衛	蔡
出典	楚			
大	*	淇県の東北の朝歌城・楚丘（滑県の東）・帝丘（濮陽県の西南の顓瑣城）	上蔡県の西南	
読	*	朝歌（濬県西七十里）	蔡（上蔡県西南十里）	
辞	*	朝歌（淇県）・楚丘（滑県）・帝丘（濮陽）	上蔡（上蔡西南）・新蔡（河南）	
中	陳（淮陽県）	淇県東北朝歌城・楚丘（滑県東）・帝丘（濮陽県西南之顓瑣城）	蔡（上蔡県西南）・新蔡（新蔡県）	
出典	陳	鄭	許	
大	宛丘（淮陽県）	新鄭（新鄭県）	許（許昌県）・葉（葉県）	
読	故宛邱（淮陽）	故鄭城（新鄭県西北）	許昌（許昌故城。後漢一。許昌県東三十里）・葉（葉故城。漢一。葉県東）	
辞	宛丘（淮陽）	新鄭（河南）	許昌東・葉（葉県西南）・白羽（西峽）	
中	宛丘（淮陽県）	新鄭（新鄭県）	許（許昌県）・葉（葉県）・析（白羽＝内郷県）・谷城（華谷城か＝或、葉県西）	
出典	宋			
大	商丘（高丘県の南）			
読	商丘県西南三里ノ故商邱			
辞	商丘（商丘南）			
中	商丘県南			

省名	楚		許
出典			
大	丹陽（秭歸県の東）・郢（江陵県の北の紀南城）	――	
読	丹陽（秭歸県東南各七里）	――	
辞	丹陽（秭歸東南）・郢（江陵西北紀王城）	――	
中	丹陽（秭歸県東）・郢（江陵県北紀南城）・鄢（一名鄢郢、宜城県）	容城（革容城か＝監利県）	

省名	秦
出典	
大	大丘（興平県の東南の槐里城）
読	——
辞	雍（鳳翔東南）
中	大丘（興平県東南十里之槐里城）・汧（隴県南三里之汧城）・汧渭間（郿県東北十五里之故郿城）・平陽（鳳翔県）
出典	鄭
大	西都畿内（華県の西北）
読	*
辞	鄭（華県東）
中	鄭（西都畿内＝華県西北）

(注) \*印はその省内に他の国の地名の記載のあるもの。  
一印は説明のないもの。

(注) 大：諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館 昭和35年

読：青山定雄編『読史第興紀要索引[中国歴代地名要覧]』省心書房 昭和49年

辞：上海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社 1979年

中：臧勵猷等編『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館発行 中華民國61年

# XXI 戦国七雄国名治所別比定一覽 ゴヂツク体が戦国時代(前475年以降)に建都・遷都したことを明記しているもの。

国名	治所	所(比定地)
齊	大	山東省益都県から歴城、聊城両県に至る間、北は河北省景、滄諸県に至り、東南は海に至る地を有す。
	読	伝・営邱 (山東省臨淄県北ノ斉城内) → 薄姑 (山東省博興県東北十五里) → 臨淄県 (漢：山東省臨淄県)
	辞	営邱 (後称「臨淄」。山東省淄博市東北)
楚	中	管丘 (山東省臨淄県。一云 山東省莒県東南) → 薄姑 (山東省博興県東北十五里) → 臨淄県 (山東省臨淄県)。
	大	丹陽 (湖北省秭帰県の東)
	読	丹陽 → 郢 (陝西省咸陽県東二十里) → 陳城。
燕	辞	丹陽 (湖北省秭帰県東南) → 郢 (湖北江陵西北紀王城) → 陳 (河南淮陽) → 寿春 (安徽寿県)。
	中	丹陽 (湖北省秭帰県東南) → 郢 (湖北江陵県北紀南城) → 鄢郢 → 陳 (河南淮陽県) → 鉅陽 (安徽阜陽県西地四十里之細陽城) → 寿春 (安徽寿県)。
	大	薊 (河北省大興県)
秦	読	薊
	辞	薊 (北京城西南隅)
	中	河北大興県
韓	大	故秦城 (甘肅省天水県) → 大丘 (陝西省興平県の東南の槐里城) → 咸陽 (咸陽県の東)
	読	——
	辞	雍 (陝西鳳翔県東南) → 咸陽 (陝西咸陽県東北)。
魏	中	故秦城 (甘肅省天水県) → 大丘 (陝西省興平県の東南十里之槐里城) → 汧 (陝西隴県南三里) → 故郿城 (陝西郿県東北十五里) → 平陽 (陝西鳳翔県) → 櫟陽 (陝西臨潼県北五十里) → 咸陽 (陝西咸陽県東三十里)。
	大	韓原 (陝西省韓城県の西南。一説に山西省河津万泉の間) → 平陽。
	読	故韓原 (陝西省韓城県東南二十里 → 故居州 → 平陽 (平陽城 = 河南省韋城県西二十里) → 陽城
趙	辞	陽翟 (河南禹県) → 新鄭 (河南)
	中	韓原 (陝西韓城県南十八里) → 平陽 (山西臨汾県) → 陽翟 (河南禹県) → 新鄭 (河南新鄭県)。

(「上」について補遺・1の2) 新鄭縣「新」

国名	出典	治所(比定地)
趙	大	趙城(山西省趙城県の西南)→晋陽(山西省太原県の北)
	読	邯鄲(河北省邯鄲県)
	辞	晋陽(今山西太原東南)→邯鄲(河北)
	中	趙城(山西趙城県西南)→晋陽(山西太原県北)→中牟(河南湯陰県西五十里)→邯鄲(直隸邯鄲県西南十里)

(注) カッコ内は比定地。各書の記載による。

大：諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館 昭和35年  
 読：青山定雄編『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房 昭和49年  
 辞：辞海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社 1979年  
 中：臧勵蘇等編『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館発行 中華民國61年

# XXII 戦国七雄 省別比定一覧

省名	出典	齊	燕	趙
河北省	大	(景<阜城県>・滄)	薊 (大興県)	*
	読	*	薊	邯鄲 (邯鄲県)
	辞	*	薊 (北京城西南隅)	邯鄲 (河北)
	中	*	大興県	邯鄲 (邯鄲県西南十里)

省名	出典	魏	韓	趙
山西省	大	魏(芮城県の東北)・安邑(夏県の北)	韓原(韓城県の西南。一説に河津・万泉<聞喜県の西>の間)	趙城(趙城県の西南)・晋陽(太原県の北)
	読	魏城・後・霍 (霍県)	*	*
	辞	安邑 (夏県西北)	*	晋陽 (太原東南)
	中	魏(芮城県西北)・安邑(夏県北)	平陽 (臨汾県)	趙城(趙城県西南)・晋陽(太原県北)

省名	出典	齊
山東省	大	(益都県から歴城・聊城両県に至る間)
	読	伝・営邱 (臨淄県北ノ斉城内)・薄姑 (博興県東北十五里)・臨淄県 (漢：臨淄県)
	辞	営邱 (後称「臨淄」。淄博市東北)
	中	営邱 (臨淄県。一云昌樂県東南)・薄姑 (興県東北十五里)・臨淄 (臨淄県)

省名	出典	楚	韓	趙	魏
河南省	大	*	*	*	大梁 (開封県)
	読	*	*	*	*
	辞	陳 (淮陽)	陽翟 (禹県)・新鄭 (河南)	*	*
	中	陳 (淮陽)	陽翟 (禹県)・新鄭 (鄭県)	中牟 (湯陰県西五十里)	大梁 (開封県)

(上へついでに戦国・1のそ) 参考「終」

省名	楚
出典	
大	*
読	*
辞	寿春 (寿県)
中	鉅陽 (阜陽県西北四十里之細陽城)

省名	楚
出典	
大	丹陽 (秭帰県の東)
読	*
辞	丹陽 (秭帰県南) ・ 郢 (江陵西北紀王城)
中	丹陽 (秭帰県東) ・ 郢 (江陵西北紀南城)

省名	楚	秦
出典		
大	*	大丘 (興平県の東南の槐里城) ・ 咸陽 (咸陽県の東)
読	郢 (咸陽県東二十里)	——
辞	*	雍 (鳳翔東南) ・ 咸陽 (咸陽東北)
中	*	犬丘 (興平県東南十里之槐里城) ・ 汧 (隴県南三里) ・ 故郿城 (郿県東北十五里) ・ 平陽 (翔県)
		櫟陽 (臨潼県北五十里) ・ 咸陽 (咸陽県東三十里)
出典	韓	
大	(韓原 <韓城県の西南>)	
読	故韓原 (韓城県東南二十里)	
辞	*	
中	韓原 (韓城県南十八里)	

省名	秦
出典	
大	故秦城 (天水県)
読	*
辞	故秦城 (天水県)
中	*

(注) \*印はその省内に他の国の地名の記載のあるもの。

—印は説明のないもの。

(注) 大：諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館 昭和35年

読：青山定雄編『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房 昭和49年

辞：辞海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社 1979年

中：臧勵齋等編『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館発行 中華民國61年

## XXIII 三十六郡名別比定一覽

郡名	出典	比定地	郡名	出典	比定地
三川	大	河南省滎沢県の西南	潁川	大	河南省禹県の治
	読	河南省洛陽県西五里		読	河南省禹県
	辞	洛陽市東北一説 滎陽		辞	(河南) 禹県
	中	河南滎沢県西南十七里		中	河南田許州・陳州・汝寧・汝州諸府以及禹県至陽武各県
河東	大	山西省夏県の北	碭郡	大	河南省旧歸徳府、山東省済寧平二県及び江蘇省碭山県より安徽省亳県に至る地
	読	山西省夏県北		読	江蘇省碭山県東三里
	辞	山西夏県西北		辞	河南永城東北
	中	山西永済県東南		中	江蘇碭山県南
南陽	大	河南省南陽県治	泗水	大	江蘇省沛県の東
	読	河南省南陽県		読	江蘇省沛県東
	辞	河南南陽市		辞	江蘇沛県
	中	河南南陽県治		中	江蘇旧徐州・淮安・邳州・安徽旧鳳陽・宿州・泗州皆其境。
南郡	大	湖北省江陵県の東南	薛郡	大	山東省の西南部と江蘇省の東北部
	読	湖北省江陵県		読	山東省曲阜県
	辞	湖北江陵東北		辞	山東曲阜
	中	湖北江陵県東南		中	一薛県＝山東滕県東南四十四里
九江	大	安徽省寿県	東郡	大	河北省大名府、山東省東昌府及び長清県以西
	読	安徽省寿県		読	河北省濮陽県附近
	辞	安徽寿県		辞	河南濮陽
	中	安徽寿県		中	直隸濮陽県南
彰郡	大	浙江省長興県の西南の故彰城	琅邪	大	山東省諸城県の治
	読	浙江省安吉県西通十五里		読	山東省諸城県東南
	辞	浙江安吉西北		辞	(山東) 莒南県琅邪台西北
	中	浙江長興県西南有故鄣城		中	山東諸城県治
会稽	大	江蘇省呉県	琅邪	大	山東省諸城県の治
	読	江蘇省呉県		読	山東省諸城県東南
	辞	江蘇蘇州市		辞	(山東) 莒南県琅邪台西北
	中	江蘇呉県治		中	山東諸城県治

「倭」源流考（その1・越裳について＜下＞）

郡名	出典	比 定 地	郡名	出典	比 定 地
齊郡	大	山東省臨淄。後、益都県	鉅鹿	大	河北省平郷県
	読	山東省益都県北		読	河北省平郷県
	辞	（山東）淄博市		辞	——
	中	山東臨淄県		中	直隸寧晋県西南二十九里
上谷	大	察哈爾省延慶県の北	邯鄲	大	河南省北部及び河北省西南部
	読	察哈爾省延慶県北		読	河北省邯鄲県西南二十里
	辞	（河北）懷来東南		辞	（河西）邯鄲
	中	旧保定・易州・宣他、及順天・河間之一部、皆其境		中	直隸邯鄲県西南十里
漁陽	大	河北省密雲県の西南	上党	大	漢：山西省長子県西。後、壺関城
	読	河北省薊県		読	山西省長治県
	辞	北京市密雲県西南		辞	（山西）長治市
	中	京兆密雲県西南		中	山西之東南部
右北平	大	満州熱河省平泉県	太原	大	山西省太原県
	読	今ノ河北省東北ヨリ熱河省東南ノ地方ヲ占メタリ		読	山西省太原県西北
	辞	天津市薊県		辞	（山西）太原市
	中	直隸津海道東北部及熱河地		中	山西旧太原汾州二府
遼西	大	河北省の旧永・承德・朝陽より遼寧省の旧錦州・新民の諸府に至る地	雲中	大	山西省の懷仁・左雲・右玉以北、綏遠省綏遠道の各県、蒙古鄆爾多斯左翼、哈爾哈右翼、四子部落各旗の地
	読	閭山城		読	山西省大同県西北四百余里
	辞	遼寧義県西		辞	内蒙古托古托
	中	自河北之旧永平・承德・朝陽至遼寧之旧錦州・新民 諸府		中	綏遠托克托県
遼東	大	満州遼寧省遼陽県の北	九原	大	烏喇特旗の東南の境
	読	襄平城		読	陝西省榆林県西北七百余里
	辞	遼寧遼陽市		辞	（内蒙古）包頭市
	中	遼寧遼陽県北七十里		中	（内蒙古）烏喇特旗東南境
代郡	大	河北省蔚県の東北	鴈門	大	山西省旧代州寧武の北部及び朔平の南部、大同の東北北部の地
	読	桑乾城、山西省大同県		読	善無城、山西省代県西北七十里
	辞	（河北）蔚県西南		辞	山西右玉
	中	直隸蔚県東北		中	山西右玉県南

郡名	出典	比定地	郡名	出典	比定地
上郡	大	陝西省の北部と綏遠省の鄂爾多斯左翼の地	長沙	大	湖南省長沙県
	読	陝西省綏徳県東南五十里		読	湖南省長沙県
	辞	(陝西) 榆林		辞	(湖南) 長沙市
	中	陝西綏徳県東南五十里		中	湖南長沙県
隴西	大	甘肅省臨洮県西南	史	大	京師
	読	狄道故城 甘肅省臨洮県西南		読	長安故城 陝西省長安県西北十三里
	辞	甘肅臨洮南		辞	(陝西) 咸陽市東北
	中	甘肅臨洮県東北		中	——
北地	大	甘肅省寧県の西北	(注一) 大：諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館書店 昭和35年 読：青山定雄編『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房 昭和49年 辞：辞海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社 1979年 中：編輯者 臧勵蘇『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館発行 中華民國61年 (注二) 四川省成都県：ママ		
	読	甘肅省寧県西北ノ義渠城			
	辞	甘肅慶陽西南			
	中	甘肅寧県西北			
漢中	大	陝西省南鄭県			
	読	漢中城 陝西省南鄭県東二里			
	辞	陝西漢中東			
	中	陝西南鄭県東二里			
巴郡	大	四川省旧保寧・順慶・夔州・重慶の四府及び瀘州の地			
	読	江州故城 四川省巴県西			
	辞	(四川) 重慶市北嘉陵江北岸			
	中	四川江北県			
蜀郡	大	四川成都県			
	読	四川省成都県 (注二)			
	辞	(四川) 成都			
	中	(四川) 成都県			
黔中	大	湖南省沅陵県の西。湖南省旧辰州・常德・永順・澧州の諸府州及び貴州省旧黎平			
	読	黔中故城 湖南省 陵県西二十里			
	辞	湖南常德市			
	中	湖南沅陵県西			

XXIV 秦・三十六郡名省別比定一覽

省	郡	東 郡	漁 陽 郡	右 北 平 郡	上 谷 郡	遼 西 郡
河 北 省	出典	(大名府、一以西)	密雲県の西南	平泉県	延慶県の北	(承德一)
	大 読	*	薊 県	(今の河北省東北ヨリ一)	延慶県北	*
	辞	*	北京市密雲県西南	薊 県	懷来東南	*
	中	*	京兆密雲県西南	(津海東北部)	(旧保定一)	(承德一)
	出典	代 郡	鉅 鹿 郡	邯 鄲 郡		
	大 読	蔚県の東北	平郷県	(河北省西南部)		
北 省	大 読	*	平郷県	邯鄲県西南二十里		
	辞	蔚県西南	——	邯 鄲		
	中	蔚県東北	寧晋県西南二十九里	邯鄲県西南十里		
	中					

省	郡	河 東 郡	上 党 郡	太 原 郡	雲 中 郡	鴈 門 郡
山 西 省	大 読	夏県の北	(漢：長子県西。後、壺関城)	太 原 県	(懷仁・左雲・右玉以北)	(旧代州<五代等>寧武、朔平(右玉)、大同一)
	大 読	夏県北	長 治 県	太原県西北	大同県西北四百余里	善武城、代県西北七十里
	辞	夏県西北	長 治 市	太 原 市	*	右 玉
	中	永濟県東南	山西之東南部	太原・汾州(汾陽県)二府	*	右玉県南
	出典	代 郡				
	大 読					
中	大 読	桑乾城、山西省大同県				
	辞					
	中					

(＜上＞については豫定・1の2) 解読「逆」

省	郡	雲 中 郡	九 原 郡	上 郡
大	出典	(綏遠道＜歸綏県＞・鄂爾多斯＜呼和浩特市＞等)	烏喇特旗＜五原＞の東南の境	(鄂爾多斯＜呼和浩特市＞左翼の地)
読		*	*	*
辞	托 克 托	包 頭 市		*
中	托 克 托 県	烏喇特旗＜五原＞の東南境		*

省	郡	遼 西 郡	遼 東 郡
大	出典	(朝陽・旧錦州・新民の諸府)	遼陽県の北
読		閭山城＜北鎮県＞	襄平城＜遼陽県＞
辞	義 県	遼 陽 市	
中	(朝陽・旧錦州・新民諸府)	遼陽県北七十里	

省	郡	薛 郡	琅 邪 郡	斉 郡	東 郡
大	出典	(山東省の西南部)	諸城県の治	臨淄。後、益都県	(東昌府＜聊城県＞・長清県以西)
読		曲 阜 県	諸城県東南	益都県北	*
辞		曲 阜	膠南県琅邪台西北	淄博市	*
中		滕県東南四十四里	諸城県治	臨淄県	*

省	郡	会 稽 郡	泗 水 郡
大	出典	呉 県	沛 県 の 東
読		呉 県	沛 県 東
辞		蘇州市	沛 県
中		呉県治	(旧徐州＜銅山県＞・淮安・邳州＜銅山県＞)

郡	出典	九江郡	碭 郡	泗 水 郡
大	寿 県	(碭山県・亳県)	*	
読	寿 県	碭山県東三里	*	
辞	寿 県	*	*	
中	寿 県	碭 山 県 南	(旧鳳陽・宿州＜宿県＞・泗州＜泗県＞)	

郡	彰 郡
出典	長興県の西南の故彰城
大	安吉県西北十五里
読	安 吉 西 北
辞	長興県西南有故彰城
中	
浙江省	

（上）について整理・その1）本表「終」

郡	出典	三 川 郡	南 陽 郡	潁 川 郡
大	繁沢県の西南		南 陽 県 治	禹 県 の 治
読	洛陽県西五里		南 陽 県	禹 県
辞	洛陽市東北、一説繁陽		南 陽 市	禹 県
中	繁沢県西南十七里		南 陽 県 治	旧許州＜許昌県＞・陳州＜項城県＞・汝寧＜汝南＞・汝州＜臨安県＞・禹県・陽武＜原陽＞
出典	東 郡			
大	*			
読	濮陽県付近			
辞	濮 陽			
中	濮陽県南			

郡	南部
出典	江陵県の東南
大	江陵県
読	江陵東北
辞	江陵東北
中	江陵県東南

郡	黔中郡	長沙郡
出典		
大	(沅陵県・旧辰州＜沅陵県＞・常德・永順(芷江県)・澧州＜澧県＞)	長沙県
読	黔中故城、沅陵県西二十里	長沙県
辞	常德市	長沙市
中	沅陵県西	長沙県

郡	上郡	漢中郡	内史
出典			
大	陝西省の北部	南鄭県	京師
読	綏徳県東南五十里	漢中城、南鄭県東二里	長安故城、長安県西北十三里
辞	榆林	漢中東	咸陽市東北
中	綏徳県東南五十里	南鄭県二里	*

郡	隴西郡	北地郡
出典		
大	臨洮県の西南	寧県の西北
読	狄道故城、臨洮県西南	寧県西北ノ義渠城
辞	臨洮南	慶陽西南
中	臨洮県東北	寧県西北

都 省	出典	巴郡	蜀郡
四川	大	旧保寧＜閬中等＞・順慶＜南充等＞・夔州＜西昌＞・重慶・瀘州＜西昌県＞	成都 県
川	読	江州故城、巴県西	成都 県
省	辞	重慶市北嘉陵江北岸	成都 都
	中	江 北 県	成都 県

(注) 大：諸橋轍次著『大漢和辞典』大修館 昭和35年

読：青山定雄編『読史方輿紀要索引中国歴代地名要覧』省心書房 昭和49年

辞：辞海編輯委員会『辞海上・中・下』上海辞書出版社 1979年

中：臧勵蘇等編『中国古今地名大辞典』台湾商務印書館發行 中華民國61年

図I

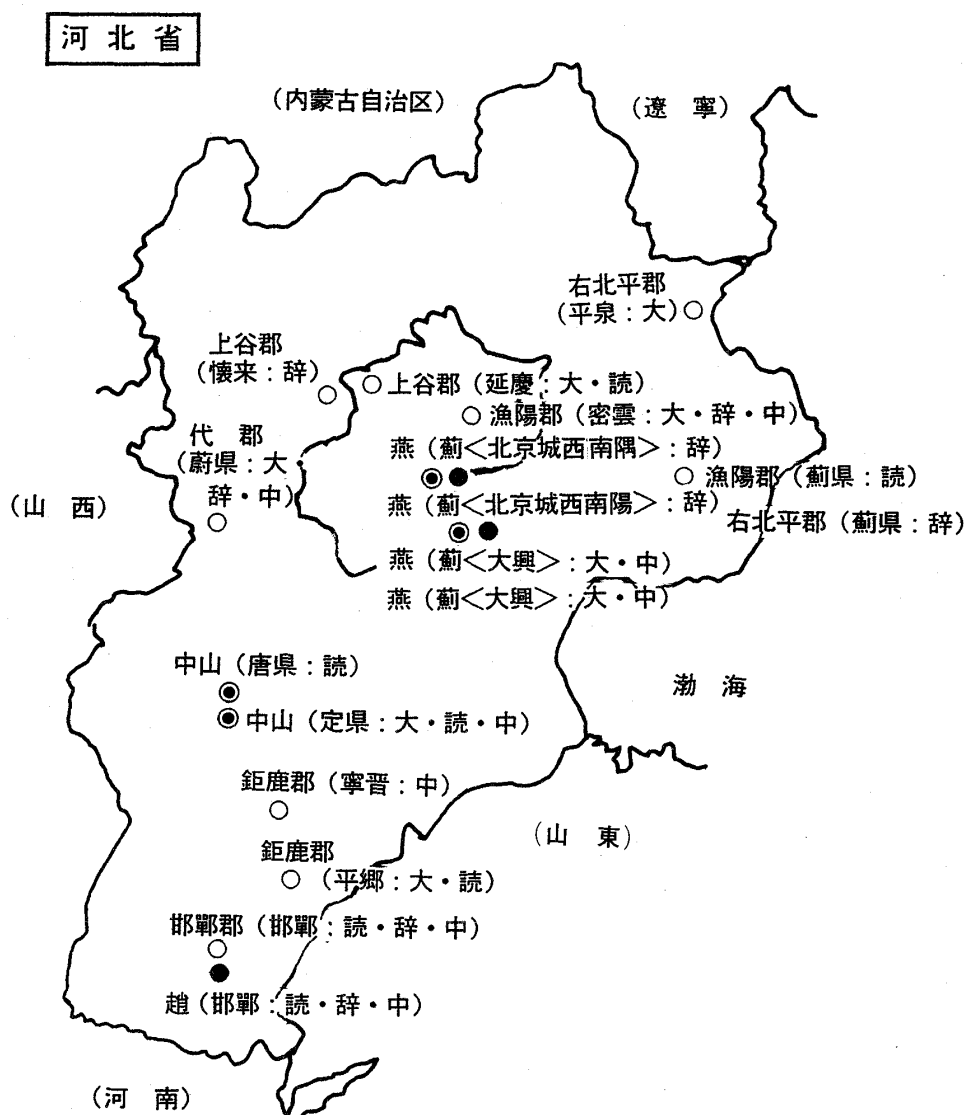
十二諸侯・戦国七雄・秦三十六郡別図

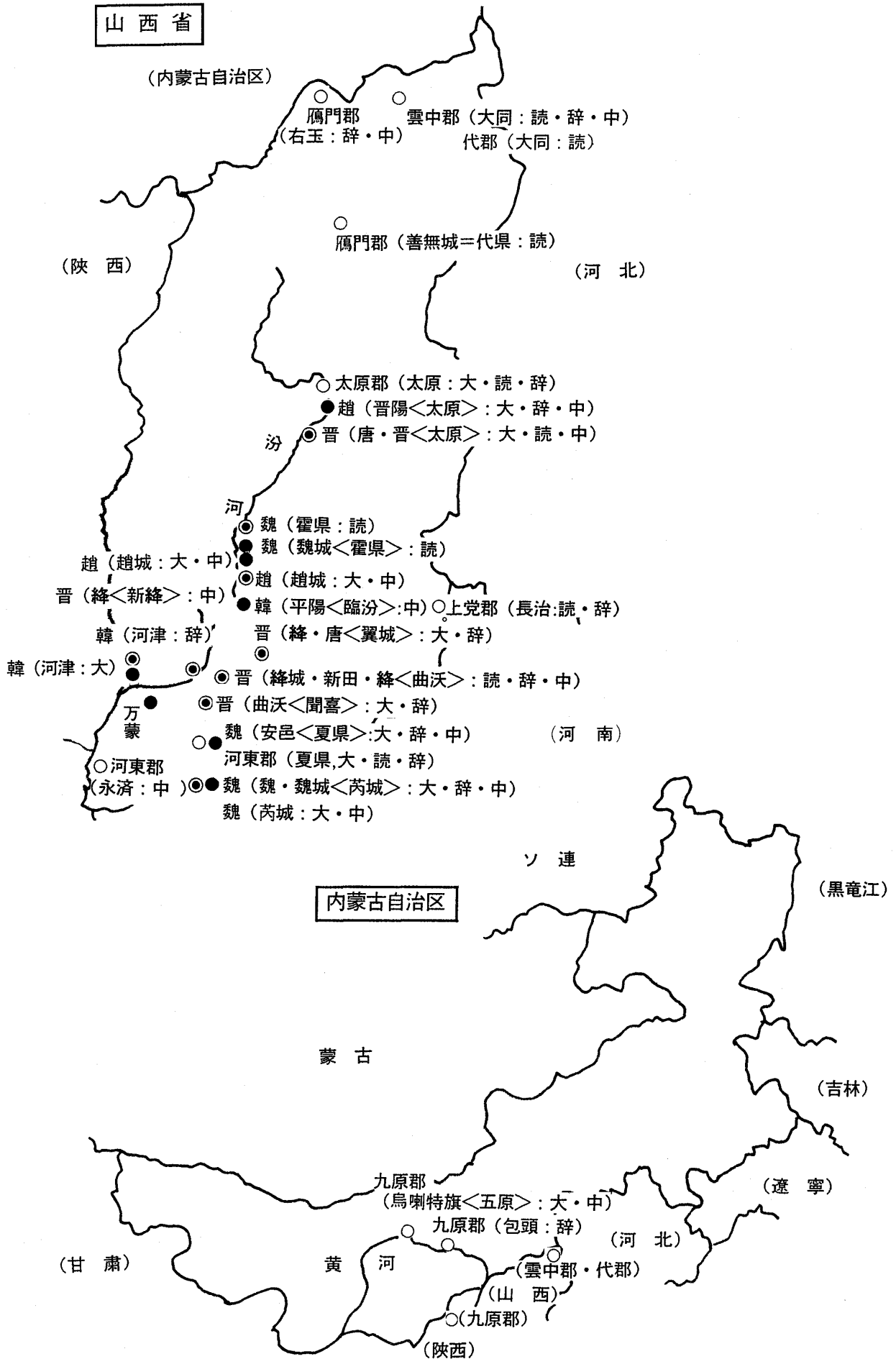
記号

- ：十二諸侯
- ：戦国七雄
- ：秦三十六郡

図作成

- 『中華人民共和国分省地図集』地図出版社 1974年
- 『中国地図』香港学林書店印行 1972年





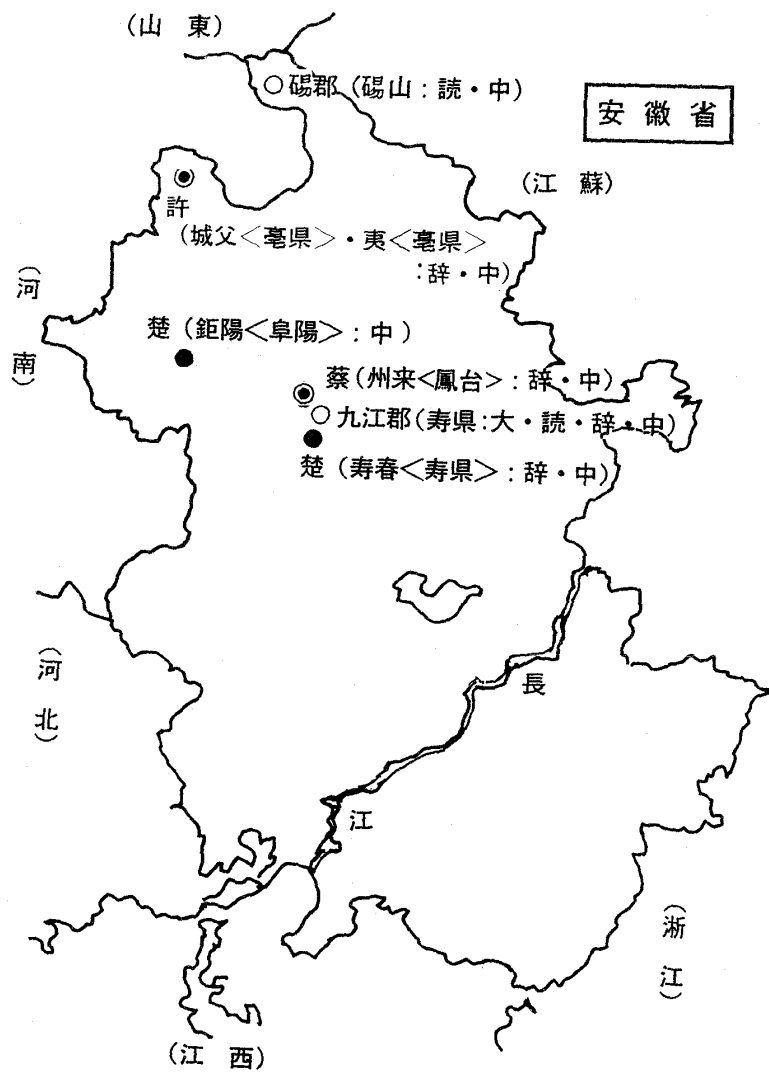
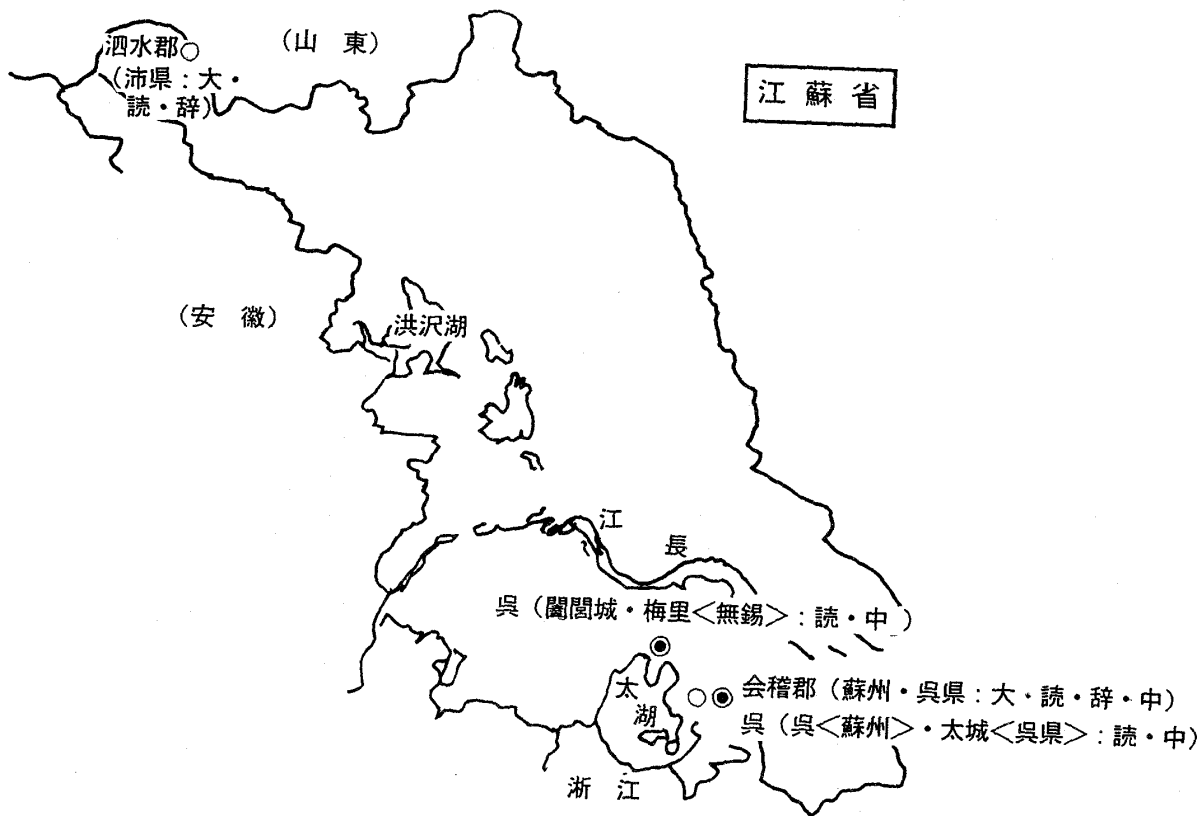
遼寧省



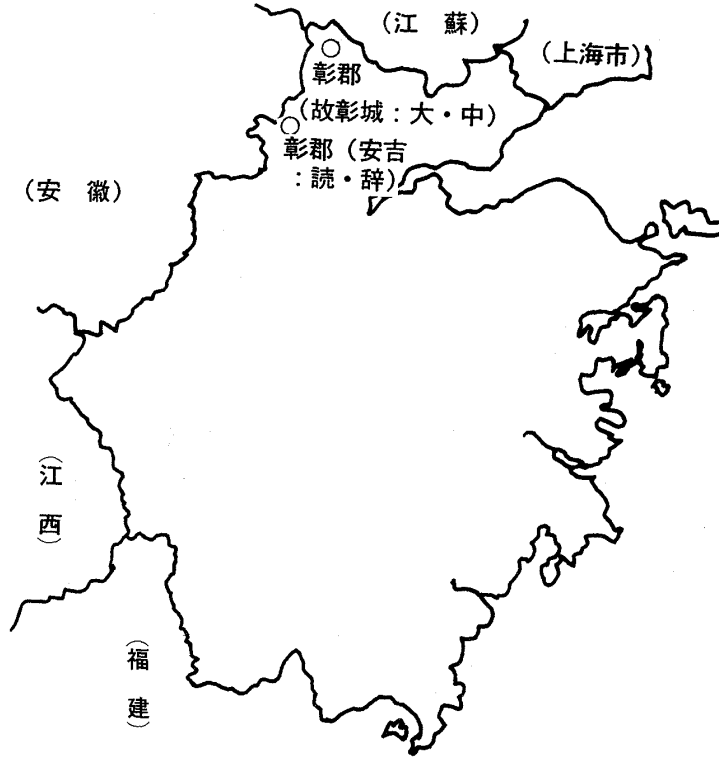
山東省



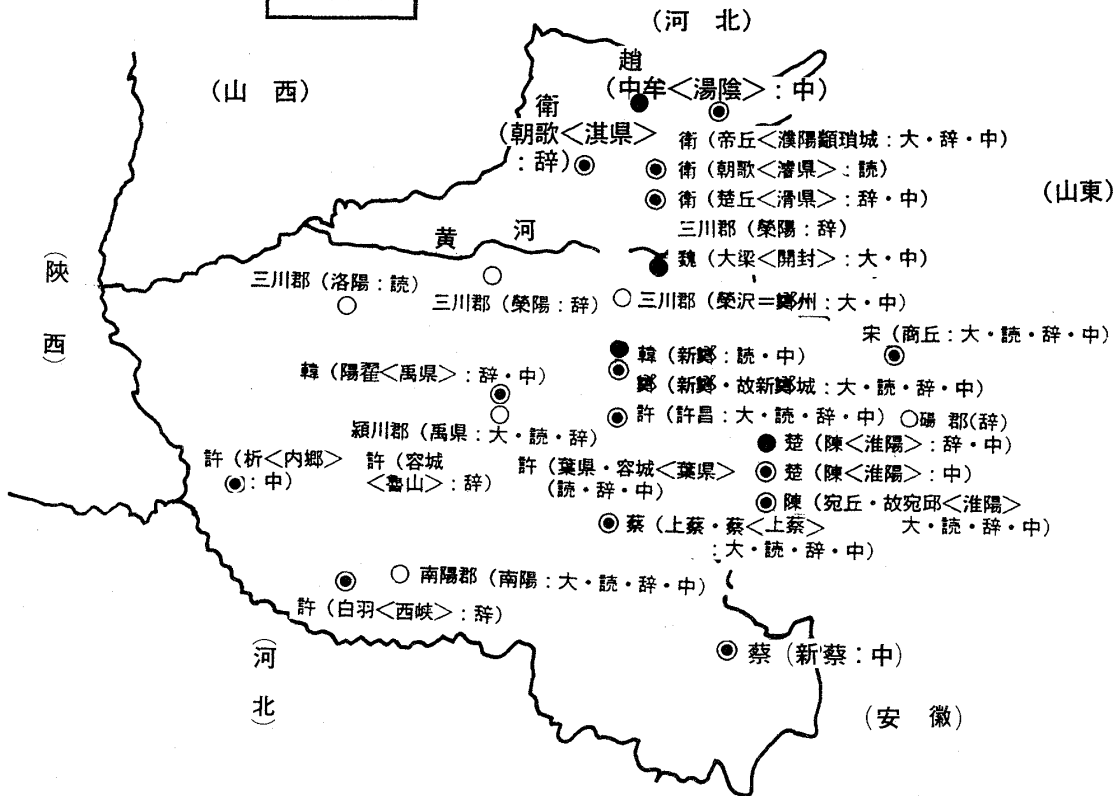
「倭」源流考（その1・越裳について<下>）

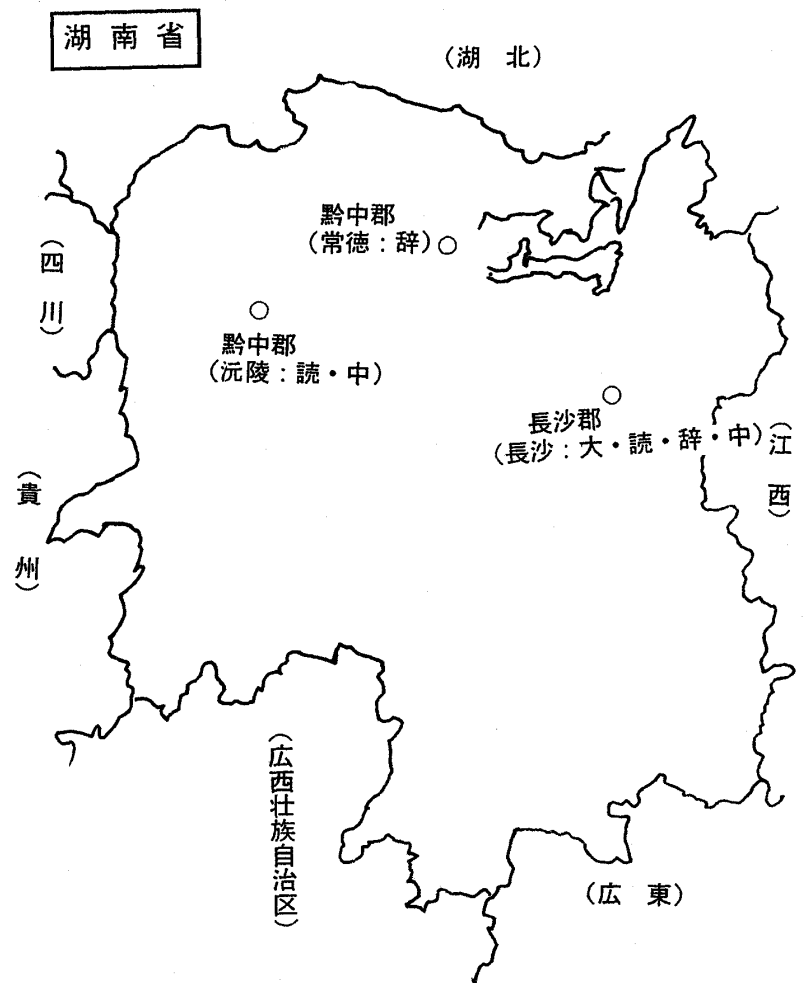
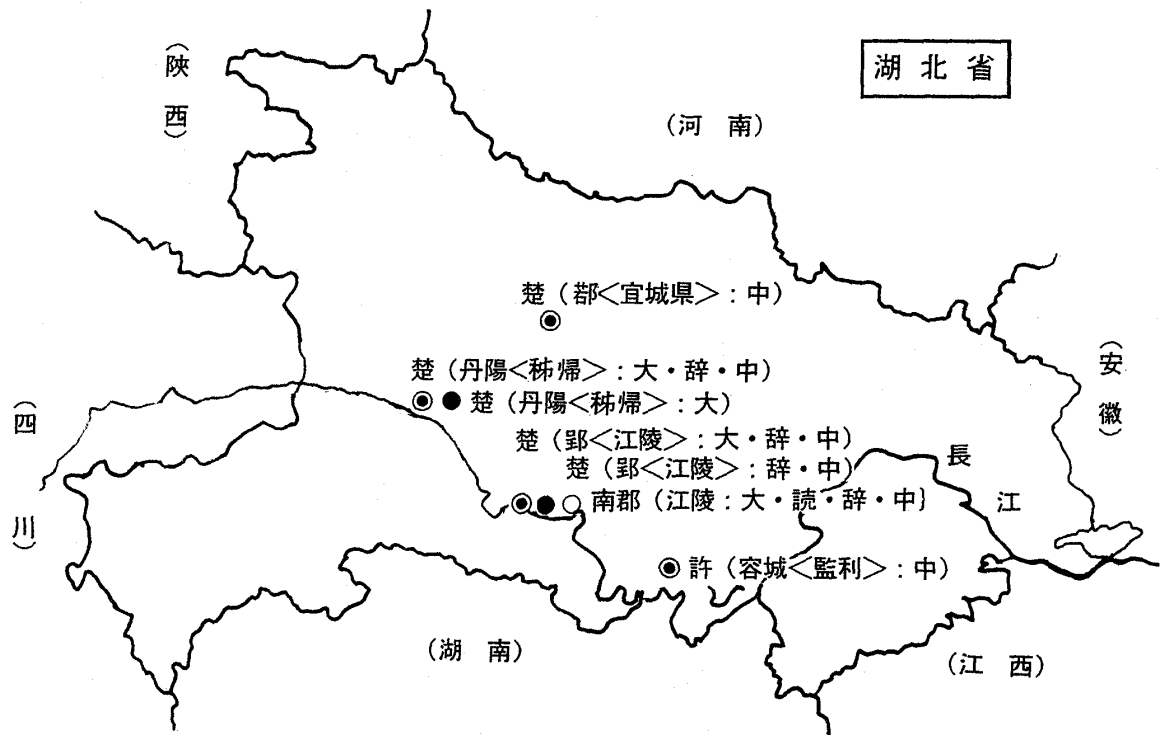


浙江省

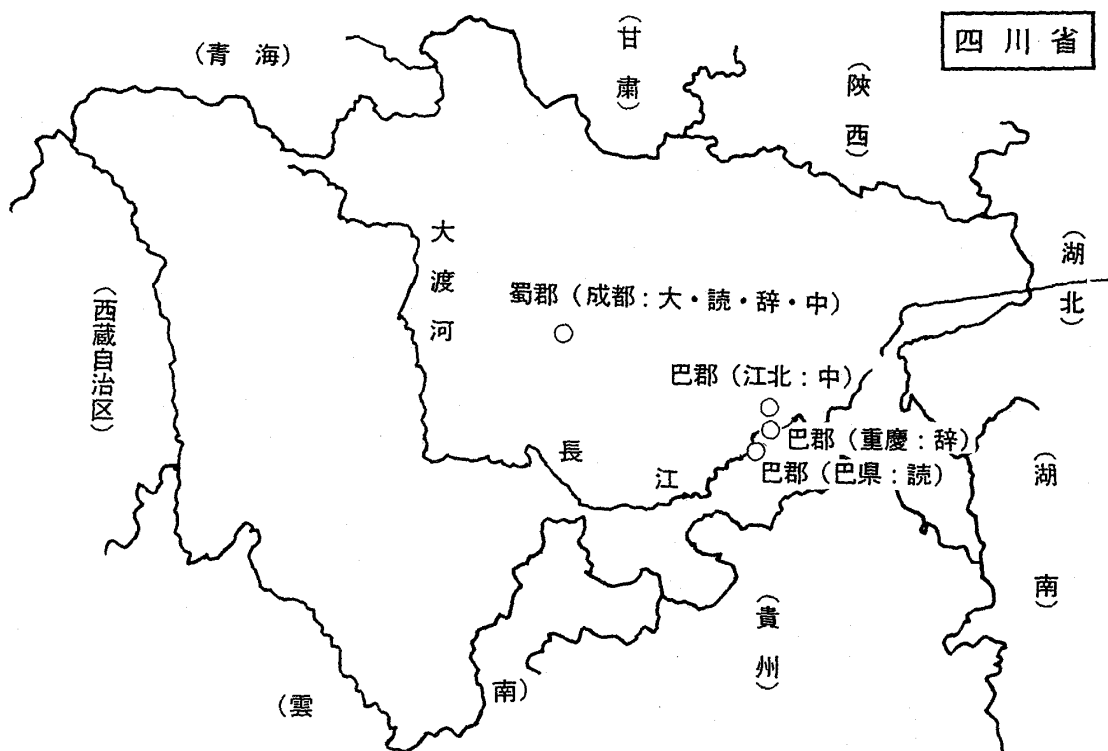


河南省





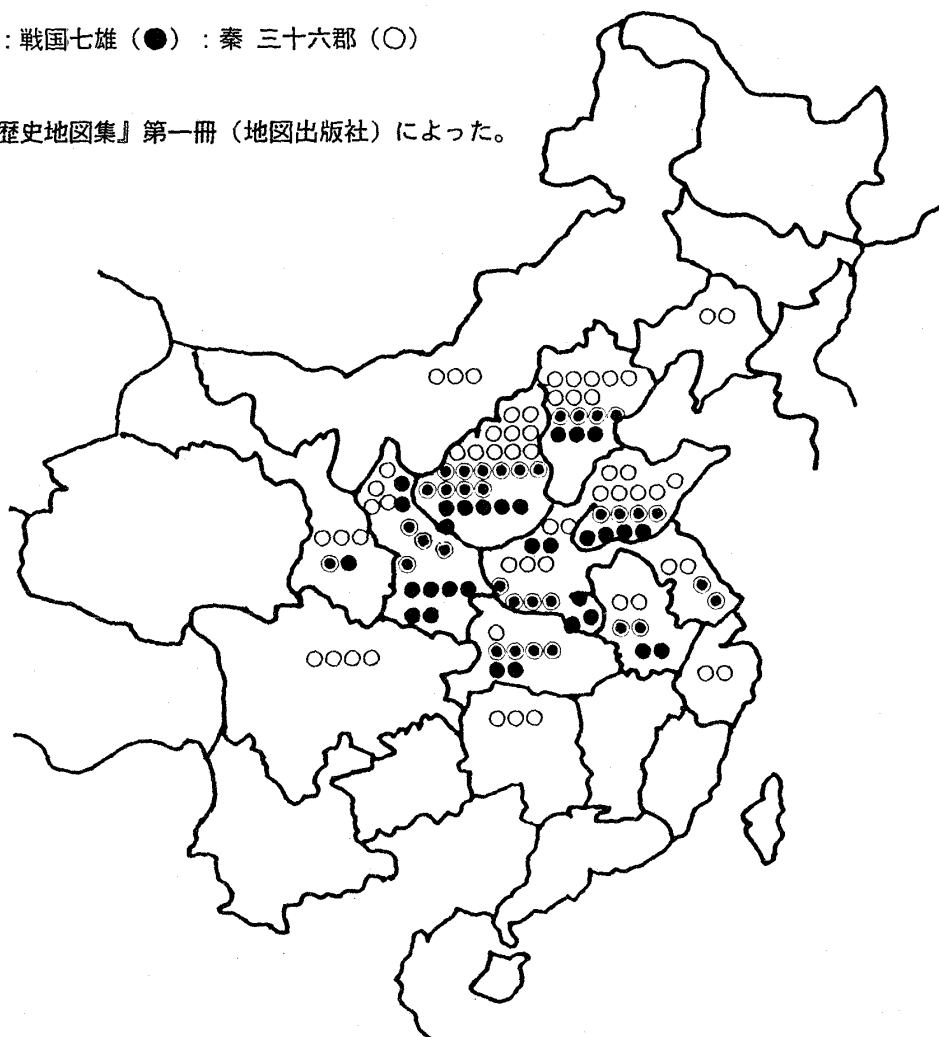




図Ⅱ 十二諸侯 (◎) : 戦国七雄 (●) : 秦 三十六郡 (○)

設置個所比定数

※原図は『中国歴史地図集』第一冊（地図出版社）によった。



## 一六、結論

これまで述べてきた主要事項を纏め、結論としたい。

一、周第二代成王時代「猷白雉」「来朝」した越裳は、又、越嘗・越常と同一国である。

二、越裳国が存在した地域は、独特の風俗・文化を伝えており、それらの特異性は早くから中原に伝わっていたらしいこと。

三、江南地方は「白」を概念とする風俗文化を持つこと。

四、越裳（交趾）の関連地名である「荷沢」は、現在の山東省定陶県である。

五、越裳（交趾）の関連地名である「幽都」は、「后土」なる概念と深く結びついており、山西省万荣県に比定される。

六、幽都（后土）は地下にかなりの遺跡が埋没されている可能性が強く、もし実在すれば、それは夏王朝と深い関連があると思われること。

七、越裳（交趾）の関連地名・事象の多くに、かつて実在の可能性があったことから、越裳（交趾）も、上代に存在した可能性が高いこと。それ故、中原王朝の進出が阻まれていたと思われる。

八、早くから穀倉地帯として開かれていた江南地方に、独特の文化が育成され、その文化は一面、白の概念を持つものであったこと。

九、越裳（交趾）は江南地域に実在し、白雉を猷じた年は西暦前一一世紀の前半の可能性が高いこと。